大阪市教

2023年 11月2日
VOL. 607
（一部30円。 購読料は組合費に含む）

あかんやろカジノ女性パレード＝11月9日

年度末人事相談
- 11月29日(水)18時
- アネックスパル法円坂
  JR森ノ宮・地下鉄谷四

発行　大阪市学校園教職員組合　大阪市中央区法円坂1－1－35（大阪市教育会館内）
TEL 6910-8700 https://osaka-shikyo.org/
FAX 6910-7990 E-mail o-sikyo1@sea.plala.or.jp

大阪市教教研　難民、子どもの心に寄りそう 学び合い、交流深める

大阪市教第32回教育研究集会が10月14日開かれ80人が全体会・5分科会に参加し、学び合い、交流を深めました。

記念講演でビスカルド篤子さん（カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピス副センター長）は、難民支援の難しさ、日本政府の対応の酷さの実情について報告。「ゴールは難民の人が定着できること、難民が日本社会に貢献をする機会がないと生きていけない。活動に参加した中高生の柔軟な思考を難民支援に生かしたい」と話しました。

記念講演のビスカルドさん

日本の難民認定は国際的な基準からみてかなり低い現状で、帰国すれば迫害されるトルコ系クルド人の認定率は0％です（米国やカナダは100％に近い）。

参加者から、「お金のばらまきだけでなく、真に必要な支援を政治がすべき」「配慮が必要な外国にルーツを持つ子どもたちはこれから増えていくので、広い視野をもちその心に寄りそうことが大切」「難民問題は他人ごとではない、誰しも向き合うべきこと、目をそむけてはいけない」「一人ひとりが大切にされる社会をつくってほしい」等の感想が寄せられました。

●子ども達が安心して過ごせる学校づくり分科会　主に特別支援教育について考えながら、学校で働くさまざまな立場の人が交流を行いました。支援を必要としている子どもが増えていることや、そのニーズ（日本語指導、不登校など）が多様化していることが問題に挙げられました。どの子にも十分に寄り添ってあげたいけれど、人が足りない。寄り添う人がいてこそ子どもは安心できると、改めて考えさせられました。

●楽しく取り組む図工指導分科会　三上さんは人物の表現法について、子どもの作品を示しながら大切なポイントを丁寧に話しました。実技は紙版画。制作しながら質問も次々に出て、あっという間の時間でした。「2年生で紙版画をするということで不安でしたが、とっても勉強になりました」「（紙版画の）手の作り方や顔の順序など、大変勉強になりました」「作る楽しさ、指導のポイントがよく分かりました」など感想が寄せられました。

●音楽指導のABC分科会　まず中口学級の音楽の授業の様子を見て、楽しい雰囲気の中での実技講座が始まりました。ボールやティッシュを用いた鑑賞教材の学習では、評価の方法も知ることができました。リズムリレーや、グループでリズムを作った『手拍子の花束』の実践も楽しかったです。会場の都合で歌ったりはできませんでしたが、音楽の授業で使えるアイディアをたくさん教えてもらうことができました。「来週からの音楽の授業でまた生かしてがんばっていきます」の声が寄せられました。

●会計年度任用職員交流会　スクールサポートスタッフSSSなど7人が参加。20年度より導入された「会計年度任用職員」制度の導入後、大阪市でもさまざま職種が雇用されており、その多くは女性職員です。現場からは（6時間勤務で）「募集要項に明記されているのに休憩時間が取れていない」「学力向上の取り組みで問題作成や採点、図書館の貸出業務も行っている」などの発言がありました。

●オープンダイアローグOD分科会　精神療法の思想・技法から始まり、対話的関係と教育・発達の問題が深められています。ひきこもり支援のためにODを学習、実践した取り組みについて、社会福祉法人つむぎ福祉会（障がい者・若者の自立・子育て支援）から2年半の取り組みが報告されました。「青年の自立支援センターゆう」で利用者との対話実践を開始しました。今後勉強会を継続し、対話を大切にする風土を醸成していきます。

年度末人事要求書提出　正規職員増、希望尊重

大阪市教は年度末人事・定員要求提出交渉を10月24日に行い希望尊重の人事を求めました。「国の人件費削減政策のもとで長年続けられている『定数内講師』の大量配置により、そして、長時間過密労働の改善が行われないもとで『教員不足』が社会問題となっている。教育予算を増額し正規教職員を増やすこと。配置の遅れが常態化し『異常事態』が続いている」と、速やかな代替配置を求めました（要求書第2項）。

保育事情の希望尊重、通勤時間短縮、事務職員の一次内示保留をなくすこと、休職者増の対応、養護教職員の複数配置、栄養教諭の全校配置、アレルギー対応の負担増を軽減すること、障害種別の学級設置、特別支援教育サポーター増等を求めました。講師の未配置状況小学校42・中学校9（10月1日現在）が明かになりました。

市教委は「昨年度と同様の方針で人事異動を行ってまいりたい」と答えました。

大阪市教は事務折衝・交渉を通じて「人事異動の考え方、取り扱い」を確認します。11月29日に年度末人事相談を行います。

全国女性教職員　子どもたちに平和な未来を

全国女性教職員交流集会が10月28、29日京都教文センターで開かれました。

現地実行委員長の本田さんは「取り巻く状況は厳しいが仲間との語らいの中で光が見えてくる。共に学び合い語り合おう」とあいさつ。基調報告は「『先読み加配』が全国で実施可能になったこと、ジェンダーやハラスメントの問題が社会問題として表面化したことは小さな声を集めて行政や社会に訴えてきた運動の成果だ」と強調。

毎日放送ディレクターで映画「教育と愛国」監督の斉加尚代さんが、「新たな戦前を迎えないために、子どもたちに平和な未来を手渡したい」と、ジャーナリストとして取材してきた教育への政治介入の実態を明らかにしました。最後に「教えるとは希望を共に語ること」ルイ・アラゴンの言葉で講演を結びました。

仲間が増えた！

労働者としての権利が守られる大阪市に
病休、パワハラ、人事の相談で

産休代替欠員の職場から、管理職が権利を守らないとの怒りのメールが大阪市教ＨＰに届きました。権利侵害とたたかっている大阪市教の輪に加わって下さいとの呼びかけに「組合について詳しい話を聞きたい」。面談して加入。申込書に「労働者としての権利がきちんと守られる大阪市になってほしいです！」と記入。教採突破講座参加のつながりがありました。

病休取得に対する管理職の対応についての電話相談がありました。説明し、加入用紙を送りました。後日、職場のパワハラ相談。「年度末人事相談の時に加入書を書きます」。いま労働組合が求められています。声をかけ仲間を増やしましょう。

教え子を再び戦場に送るな！